

も諮問してあるので、金砂郷地区の統合中学校についても、これまでの経過を踏まえ、その中で検討していただくことになっている。

3 市内幹線道路の公共交通の運行について

本市において、日立電鉄線の廃止は多くの問題を残したが、それ以上に、常陸太田から金砂郷・水府・里美への路線バスが廃止などということになれば、その影響ははかり知れない。そのことは、常陸太田市のまちづくりにも多大な影響を与えると思う。まちづくりには、すぐにあらわれる特効薬はないと思うが、その中で、交通インフラの整備は重要なものであると思う。よりよい路線バス運行について考えを伺いたい。

市長公室長 新市の一体性や地域間の交流の促進、市民の日常生活における利便性の高い移動手段等の確保等のために、新たな公共交通体系の整備が急務になってきている状況である。このために、平成18年度には、市、民間事業者、関係行政機関、市民の代表者による意見の交換の場として、地域交通会議（仮称）を開

催し、市民、民間事業者、バス会社、タクシー会社の方を含めて、行政の役割分担を明確にして、新市の地域全体の中で、地域の実情に即した公共交通サービスの範囲や形態等のあり方等について検討して、できれば19年度中には、新たなシステムの中で、試行運行ができるよう、協議を行ってまいりたいと考えている。

なお、全体的な公共交通対策の検討に先立ち、市民バスの運行については、平成18年度中に、現在のコースのほかに、早期に新市の一体化を図ることを考慮して、4地区を結ぶコースの増設、太田地区、金砂郷地区、水府地区、里美地区に路線バス以外に市民バスのコースを設定して、試行運行について、現在、検討を進めているところである。



市民バス

梶山昭一議員

1 救急搬送と医療の充実について

救急車の年間出動件数が高齢化を背景に増加し、今後も増加が予想されるが、救急車の年間出動件数や現場に到着するまでの所要時間の一番要する地域、長時間要する地域の消防分署の設置の考えについて。また、救急車に頼り過ぎを改める工夫についても考える必要があると思う。また、医療の充実については、医師不足の問題はないのか。住民が安心・安全に暮らすためにも、地域医療機関の充実の考えを伺いたい。

消防長 年間救急出動件数における増加率は、平成7年、1068件、昨年は、1743件で、比較すると675件、約1.6倍となっている。

現場到着までに所要時間を一番要する地域は、里美地区の里川町岡見地区で、中染分署から出動して、現場到着までに35・3キロメートルあり、43分を要している。

軽症者の出動要請は、昨年の傷病

程度別の搬送人員は、1748人、そのうち1064人、60・9%が中等傷病や重症等で、残りの684人、39・1%が軽症である。しかし、一概に、軽症であっても緊急性がないとは限らないわけで、緊急性がある出動が多数であるが、中には、救急車で病院に行けば待たずに診療が受けられる、あるいはタクシー代わりと、安易な要請もあり、出動件数増加の要因になっているのも事実である。この件数は、軽症者の約1割が該当すると思われる。

救急車に頼り過ぎを改めるという工夫については、応急手当の普及・啓発事業として、各種の救急講習会を開催しているところである。これは、市の広報紙等も活用し周知しているところであるが、今後とも、応急手当の普及を図るとともに、救急車の適正な利用について周知してまいりたい。

総務省消防庁では、平成17年度の重要検討項目の一つとして、救急需要対策に関する検討会を立ち上げ、傷病者のトリアージ方法、民間事業者の効果的な活用、消防職員の勤務

地、駅前広場及び道路の整備、駐車場の整備について、市の方針を説明する中で意見をいただき、整備計画を策定したいと考えている。

平山晶邦議員

1 平成18年度の予算
編成について

17年度の予算は、基金より21億円繰り入れ、また起債を20億円、財政調整基金も年々減しているのが現状であるが、18年度の予算編成をどのように取り組んでいくのか。また、歳出削減に向かっているか。また、歳出削減に向けた数値目標や9月の決算特別委員会で指摘した疑問・課題がどのように生かされた計画、実行、点検、改善する予算編成を指示しているのか伺いたい。

市長 財政力の非常に低い当市にとつては、意を用いる必要があると認識をしている。自主財源としては、

【立原議員 他の質問事項】
・ 行財政策について
・ 産業政策について
・ 教育関係について
・ 公共事業について

市税、使用料及び手数料、財産収入等であるが、その中で、決算委員会等でも指摘をいただいた税収の徴収率の向上ということに、最も意を用いていきたいと思う次第である。

予算編成に当たって前年度の留意点に1点だけ追加したのは、平成17年度は合併してすぐの予算編成ということ、各本庁・支所等がそれぞれに予算編成し、それを合算するような形での予算編成が中心であったと思つている。18年度は、本庁・支所間でのそれぞれの共通部門があるので、その中でよく合議をした上で、バランスのとれた予算編成をしていきたいと思つている。

なお、事業の計画に当たっては、過疎地に対する過疎債の発行が、平成

21年度で終わりになるので、21年度までに事業が完了するものでなければ、計画に入れるわけにいかないの、そういうことも重点に考えて、予算編成をしていきたいと思つている。なお、人件費等については、現在、策定中である定員適正化計画に基づき、人件費の削減にも努めていく考えてある。

公用車の件等についても、すぐに行うことができるように費用削減という意味でも、大いに積極的に進め、できるだけ財源を有効に活用していきたいと思つている。18年度予算全体を考えたとき、平成17年度予算額までの予算の確保は難しいという状況にあるので、厳選した事業計画を進めていきたいと思う。

また、ライフラインに関しては、早く整備をしていく必要があると考えている。上水道、ごみ・し尿処理の問題のように市民の生活を守るための施策は、これをベースに置く必要があると考えている。

総務部長 平成18年度予算については、現在、要求書を取りまとめているところであるが、各課等において、見直しや改善が図られた事務事業については、予算に反映されていくものと考えている。なお、予算編成方針における委託料等については、

継続している委託契約は、安易に計上せず、委託内容の再検討を行うとともに、単価等積算内容についても、原則として複数業者より見積もりを徴するなど再度検討して、最小限の額で計上することと指示しているところである。

2 金砂郷地区における
統合中学校の検
討状況について

教育問題は、子供を持つ家族にとつては大きな問題であり、地域にとつても、教育文化は大切である。それゆえ、地域や地区の住民にとつて、学校の統合問題、建設問題は重大な関心事である。したがって金砂郷地区における生徒数の減少、校舎の老朽化対策、地理的条件を含め教育の効率化を図るため、統合中学校建設についてどのような考えを持っているのか伺いたい。

教育長 金砂郷地区における統合中学校の検討状況については、現在、教育委員会においては、将来の児童生徒数の動向を踏まえ、常陸太田市における教育施設等のあり方を検討するため、中学校施設検討協議会を設置し、中学校の適正規模について